

# 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)	
<b>学ぶ意義や目的意識を明確にし、習得した知識・技能が様々な場面で活用できる資質・能力につながる学習を目指す</b> ○基礎的・基本的な知識や技能の定着○学ぶ意欲の向上○思考力・判断力・表現力の育成○個々の能力の伸長 ①授業の充実 ・教材研究と指導方法の研究を通して興味を持ち分かる授業を展開する・学習意欲を高めるための指導と評価の一体化を図り、指導計画と評価計画を改善する ②思考力・判断力・表現力の育成 ・授業を中心に思考力や表現力を向上させるための活動を充実させる・言語力や読解力を向上させるための活動を推進する	

授業改善の重点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●チャイム着席の徹底や話しを集中して聞くことができるよう、教職員が粘り強く組織的に指導する</li> <li>●分かりやすく興味をもてる授業及び学びが深まる指導方法を工夫する</li> <li>●目標を達成させるための具体的な手立てと評価のあり方について研究を深める</li> <li>●学習習慣を定着させるための家庭学習を計画的に実施する。また、本校の「学習の手引き」を有効に活用する</li> <li>●「パワーアップ教室」など放課後の補充学習、長期休業中における補充学習を実施し、基礎学力の定着を目指す</li> </ul>	

各教科の指導の重点	国語科	美術科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	○学習したことを生かして「表現」につながる活動を設ける。また、教科書教材以外の文章に触れる機会を設けて、既習事項と比較させ、書き方や読解の方法を身につけさせる。 ○ワークシートを取り組みやすい内容となるように工夫作成し、基礎基本に重点を置きながら、わかる授業を展開する。	○基礎的・基本的なものの見方、とらえ方については、デザインとデザインの構成を基本とし、各学年の教材選択から吟味し、発達段階に応じた課題を設定する。 ○各学年の目標に沿った年間計画と各分野のバランスよい組み方、個々の進捗差を配慮した授業計画を再度検討し、達成感、満足感が得られるように努力する。 ○美術史や題材の資料など検索にICTを活用する			○“生きる”を学校テーマとして、1学年では「地域」「福祉」「職業」、2学年では「働く」、3学年では「伝統文化」「生きる」を学年テーマとして系統的な学習を行い、体験的学習を通して探究的な学習の充実を図る。	○発達段階に応じて系統的・段階的に指導を進め、規範教育・生命尊重や人間尊重の精神について考えさせる指導をし、豊かな心の教育を推進する。
	社会科	保健体育科			特別活動の指導の重点	
	○基礎的・基本的な内容を把握できるようにワークシートを工夫し活用する。また、コミュニケーション能力をつけるために、設問の中でグループ学習を取り入れ、自分の考えを発表したり、他者の意見を聞く場面を設ける。更に、生徒の興味・関心を引き出すために、視覚教材や、生徒の生活に身近な題材を取り扱うとともに、発展学習・課題解決型の工夫に努めていく。	○体育分野では、学習カードや、視聴覚機器を活用して、課題解決力や個々の能力に応じた目標設定ができる力を養い、総合的な基礎体力の向上を図る。また、スポーツテストの結果をもとに、各単元で、必要な体力を向上させるため補強運動を充実させる。 ○保健分野では、視聴覚機器やPPを活用し、生涯にわたって心身ともに健康で充実した生活を実現できる力を育成する。				○基本的社会集団としての学級を重視し、人との関わりやその問題解決について学びながら、規範意識や公共心を育てる指導、命の大切さを考える指導を推進し、学ぶ場として生徒自らが意欲的に考えられる学級活動の指導を展開する。
	数学科	技術・家庭科				
	○生徒同士で根拠を示し考察する力を育てる課題については、基礎的な学力の定着と比例しているため、まずは基礎的な学力、特に基本的な計算力の定着を図る。 ○既習事項をもとに、新たな課題の解決に向けて学習が進められるように配慮する。生徒とのやりとりや生徒同士での発表の中で根拠を示し考察する力を育てたい。	○もの作り・衣食住などの知識と実践的・体験的な活動を通して、自立に必要な基本的・基礎的なことを身につける。各学年の発達段階に応じて課題を設定し、取得を図る。また、技術の進歩が及ぼす影響を広い視野から考えられるように努力するとともに、言葉で表せることを努力する。				
	理科	外国語科				
	○基礎的な内容を理解させるため、ワークシートや問題プリントを使用し定着を図る。また、実験や観察を多く取り入れることで、生徒に興味関心を持たせながら、体験的に学習する機会を多く設ける。それにより、実験結果からわかることを考察し、発表することで、表現力、科学的思考力を養う。共同的探究学習を取り入れる。	○学習したことを応用し、発表やパフォーマンステスト等を通じて、英語で自分のことを伝えたり、即興でやり取りできる力の育成を図る。そのためにも、単語テストなどを適宜実施し、英語の語彙力を高め、基本的な知識を増やしたり、授業中での英語活動を充実させる。				
音楽科						
○音楽の基礎・基本となる音楽記号を理解し、それを表現活動の中で、応用できる力を養う。また音楽を形作っている要素等を理解し、鑑賞する力も養えるようバランスよく計画していく。 ○自己評価カードや鑑賞の記録などを活用し、言語表現の力も養えるよう計画していく。						

本校の授業改善に向けて	○指導内容・指導方法の工夫	○校内における研修	○評価活動の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●授業を中心に思考力や表現力を向上させるための活動を充実させる</li> <li>●言語力や読解力を向上させるための活動を推進する</li> <li>●対話的で深い学びを実現するための学習形態など、深い学びにつながる授業指導の在り方を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●分かりやすく興味や関心を持てる授業を展開するための指導力を身に付ける研究を推進する</li> <li>●校内研究会及び研修会における教師相互の指導・支援・助言をとおして、資質向上を目指す雰囲気をつくる</li> <li>●学力向上を目的として小学校との連携を強化し、小中教員の指導方法の違いや良さを理解することで授業改善の一助とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指導の改善が評価の結果につながるよう、指導のねらいである評価規準を明確に設定し、生徒・保護者にも分かりやすく伝える</li> <li>●教科内及び校内で判断基準を統一し、目標に準拠した評価の精度を高め、その結果に基づき個に応じた指導に力を入れる</li> </ul>